

東京 IPO 特別コラム

2017年4月6日 Vol.74

東京 IPO、2016年の IPO大賞

あちらこちらで桜が開花し春爛漫の季節となってきました。桜の開花とともに2017年もはや3か月が過ぎ、新年度がスタートしました。日経平均が停滞する中において1-3月には27もの銘柄がIPOを果たし、マザーズ銘柄を中心にIPO市場は一段と賑やかな展開となっています。このように直近のIPO銘柄ばかりに気を取られがちな昨今ではありますが、東京IPOの本コラムでは忘れがちになった2016年のIPO銘柄に改めて焦点を当て、多くの投資家の支援を得ながら活躍を見せてきた銘柄に大賞を授与したいと考えております。

さて、2016年は83銘柄がIPOしましたが、その中には今後の活躍株が数多く含まれているものと推察されます。投資家の皆さんは事業内容が理解しにくい銘柄にリスクマネーを投じ成果を高めようとしているものと推察されます。今回の銘柄は東京IPOコラムニストである私が上場後の株価推移と独自の視点を組み合わせて選定した銘柄ですが、多くの投資家にもなるほどと言ってもらえるものと自負しております。既に今期予想経常利益に対して時価総額がかなり高まっている銘柄が多いので、選ばれたからと言って今後の投資成果を保証する訳ではありませんがものではありませんが、投資の参考にして頂ければ幸いです。いずれも今後の利益成長期待を反映した評価となっていますが好需給に支えられた値動きとも見られます。

選定に際しては初値、その後の高値、安値、時価を吟味して成果の高かった銘柄、上昇トレンドを描く30の高パフォーマンス銘柄を選定。更にその中から更にデータを吟味し、IR活動などを加味して2016年IPO大賞グランプリ銘柄を選んでみました。

【東京IPOが選定した栄えあるIPO大賞】（*株価は3月31日現在）



1. 農業総合研究所（3541）マザーズ 代表取締役：及川智正
上場日6月16日 公開価格1050円 時価6190円

公開価格から初値まで1.8倍、初値から直近の高値まで4.1倍、
直近の安値から時価まで3.4倍という成果をひさげ堂々のグランプリ

に輝きました。この間株式分割をしないで推移。好需給とIT×農業ベンチャー企業という希少価値によって成果が高まった可能性があります。今期予想経常利益1.7億円に対して時価総額は130億円という水準でやや割高感はあるかもしれませんが、新規取り扱いスーパーの拡大など今後の成長が期待され、中計で2019年8月期に経常利益3.5億円を見込んでいます。最近では日本郵便と協業し、郵便局を集荷場として活用する取り組みを行うなど積極的です。上場後2回の個人投資家向け説明会を開催し認知度向上に努めています。

東京 IPO 特別コラム



2. エボラブルアジア（6191）マザーズ 代表取締役：吉村英毅
上場日3月31日 公開価格1800円 時価2929円
（株式3分割、7.27）

公開価格1800円から初値まで1.5倍、初値から直近高値まで4.4倍、上場後安値から時価まで3.6倍という成果を上げて準グランプリに選出。航空券の予約サイト『空旅』を主力に2ケタ成長を続けています。3月末にHISとの提携を発表。有カアドバイザーの就任、東証1部への市場変更など矢継ぎ早のリリースを行うなどIRを積極化させています。ベトナムでITオフショア開発も行いゲームソフト事業に展開するなど成長指向が見られます。今期予想経常利益9.6億円に対して時価総額489億円はやや割高感がありますが、これまでの高評価を武器に今後も成長路線を歩むものと期待されます。サイト上での決算説明映像などIRに注力する姿が伺えます。



3. インソース（6200）マザーズ 代表取締役：舟橋孝之
上場日7月21日 公開価格520円 時価2361円

公開価格から初値まで1.6倍、初値から3月31日の高値まで3.0倍、上場後安値から時価まで3.6倍という成果を収め、見事に準グランプリに選出。今9月期予想経常利益5.6億円に対して時価総額は194億円。14年連続の増収という実績を有し、上場後の評価を高めています。人手不足を人材研修による生産性向上で補填する企業ニーズが強く今後の事業拡大への期待が高まっています。2月17日に株主優待制度の導入を発表。直近においては立会外分売16.6万株（分売価格1999円）を3月24日に実施した後に株価の上昇が見られます。サイトの充実によるIRへの注力姿勢が伺えます。



4. **敢闘賞** リファインバース（6531）マザーズ
代表取締役：越智晶

上場日7月28日 公開価格1700円 時価3830円（3月末2分割）

上場時はやや目立たない存在で公開価格から初値までは1.63倍でしたが、上場後の安値である1782円（8月8日 2分割前）から時間をかけて上昇。初値から高値までは3.3倍、安値から時価までは4.3倍となりました。映像を用いたIRに努め、その中で都市油田を標ぼうし成長を指向している点をアピール。今期予想経常利益3.2億円に対して時価総額は114億円で10億円程度までの経常利益を折り込んだ水準となっていますが、成長指向で業績向上に連れて評価の高まりが期待されます。

東京 IPO 特別コラム



5. 東京IPO賞 WASHハウス（6537）マザーズ

代表取締役：児玉康孝

上場日11月22日 公開価格2300円 時価5460円

宮崎本社で九州を地盤にコインランドリー事業を展開する同社の直近の活躍が顕著です。関東圏などでのFCを積極化させるなど、国内2万店（昨年末364店舗）構想を掲げ成長指向。このことを示す新規店舗開設のリリースが相次いでいます。今期予想経常利益3.8億円に対して時価総額373億円。経常利益40億円程度までを折り込んできた格好。初値から高値まで3.8倍、安値から時価まで3.4倍と高パフォーマンス。2月14日に上場後初めてのアナリスト向け決算説明会を開催。カンブリア宮殿などのメディアに出演するなどメディア戦略にも注力。海外ではマイクロソフトとの提携なども含めて提携戦略も積極化。3月末に2分割を実施するなど株式流動化を実行するなど株価を意識している点も評価。社長は元証券マンで機関投資家を意識。



6. 特別賞 リネットジャパングループ（3556）マザーズ

代表取締役：黒田武志

上場日12月20日 公開価格1830円 時価1180円

（2.24 5分割）本やCDなどのリユース事業や情報家電等のリサイクル事業を展開。先日筆者が同社の物流センターを訪問し感動したこともあって特別賞としました。公開価格から初値は1.9倍。初値から高値（7350円）が2.1倍、安値から時価までが2.2倍と安定した株価推移。今期予想経常利益2.7億円に対して時価総額は107億円。PCや携帯電話などの情報家電のリサイクル事業が既にスタート。都市鉱山を標ぼうするほかPCのデータ消去などにも注力。金メダリストが数多く輩出されている愛知県大府に拠点を置いており、みんなのメダルプロジェクトでも話題性。成長性への評価から現状の株価水準は納得のいくところです。自社事業と絡めた株主優待制度の導入も図るなど投資家にとっての投資魅力を高めていこうとする施策にも評価の余地があります。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）